ゲノムに触って！
ゲノムで感じて！

ゲノム研究 勢ぞろい！

in東京 Tokyo

来場者の声

- クローンのことなどを知りたいです（7歳・女）
- とても難しかったけれど、生き物のことが少しわかりました（8歳・女）
- こんな研究を大学でしているのかと初めて知り、やってみたいなぁと思いました（14歳・女）
- 手にとってさわれたり、直接体験できるのはおもしろかった（17歳・女）
- 僕ら学部3年生にとって、これからの進路を考えるうえでよい参考になった（21歳・男）
- 色々な分野の方々の意見や話が一度に聞けたのでとても有意義でした（22歳・男）
- ものすごく有名な方々がいらしていてびっくりした（27歳・女）
- 理科離れの進む生徒達にも良い刺激を与えられると思います（30歳・男）
- 何を目指してがんばっているのかという生の声を聞けた（31歳・女）
- 何よりも本人達の嬉しそうにいろいろ説明してくださる顔、研究のエネルギーを感じました（38歳・女）
- 日頃授業の準備でつきあたる知識の壁をいくつも突き崩してくれました。ありがとう（40歳・女）
- 欧米に負けないのではないかと安心した（43歳・男）
- この分野は特に研究者の最新知識、情報を一般市民に公開する必要があると思います（48歳・男）
- 基礎研究者が集まったことに重要な意味を感じました（56歳・男）

はじめてのゲノムひろば

美宅成樹（東京農工大学教授）

東京のウォーターフロント（お台場）にある日本科学未来館を会場として、はじめてのゲノムひろば（11月9、10日）は始まった。この会場は、もともと一般の人たちに対して、最新の科学技術の成果を展示紹介する場である。生物科学の最前線であるゲノム研究を紹介する「ゲノムひろば」の会場として、最適な場所といえる。「どのくらいの人が見に来てくれるか?」「どんな質問や感想を持ってくれるか?」と期待半分、不安半分の状態だったが、トークセッションなどへの申し込みの出だしは悪くなかった。

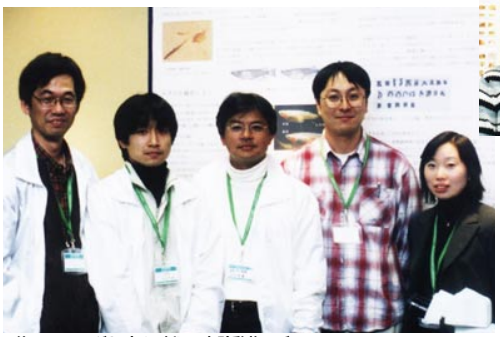
企画は、多くの研究者が自分の研究を紹介する「ゲノム研究勢ぞろい」、オピニオンリーダーとゲノム研究者が語り合う「ゲノム談義」、数名の研究者が最新の研究成果を紹介する「ゲノムセミナー」、それにゲノムの基礎知識を披露する「そもそもゲノム」からなっている。ゲノム研究勢ぞろいでは、41の研究グループがポスター、生物の実物、顕微鏡による観察、コンピュータグラフィックス、ビデオ、大型3次元ディスプレイ装置、さらには類人猿の頭蓋骨など工夫を凝らして展示していた。そういえば、遺伝的に系統の違う小麦でできたパンの展示まであった。

展示のバラエティという意味では東京がもっとも豊富だったと思う。しかし、反省点もある。学会でのポスターセッションしか経験がない研究者にとっては、普通なことだが一般の人たちにとっては苦しい小さな文字、抽象的なグラフなどがかなり見られた（同じテーマを他の会場でも紹介した研究グループはその点をちゃんと修正してきていたのは良かったと思う）。当日は日本科学未来館の特別展示として、「ゴジラ展」もやっていた。私も暇を見つけて見に行ったが、ひいき目ではなく「ゲノムひろば」のほうがはるかに面白かったと思う。実際、科学館の見学者の半数以上がゲノムひろばを見ていったという事実もあり、ゴジラ目当ての人の多くがゲノムで満足して帰ったらしい。

「ゲノム談義」は、チンパンジー生態学の研究から科学史・科学普及の分野に転進した佐倉統氏、動物学から進化生物学を中心とした科学論・エッセイを展開している谷村志穂氏、小原雄治ゲノム4領域代表、ゲノム情報の立場から不肖私（美宅）がパネリストであった。大筋は進化をめぐって話が進み、それに私が「生物は機械じゃあないか」と茶々を入れるいう展開。加藤氏の司会が全体に統一感を与えたことは間違いない。ゲノムセミナーでの松井孝典氏「宇宙とゲノム」、松原謙一氏「ゲノム研究の歴史」、笹月健彦氏「免疫応答および自己免疫疾患のゲノム解析」、高木利久氏「コンピュータを使ってゲノムから生命を理解する」はすべてゲノム研究者にも一般の人たちにもそれぞれの立場から興味深い話となっていた。

今年（2003年）も日本科学未来館でゲノムひろば開催が計画されている。初回を超える盛り上がりを楽しみにしている。

■来場者人気投票の結果



1位　B-7　メダカ:古くて新しい実験動物モデル

2位　B-8　ショウジョウバエに学ぶ遺伝子のはたらき

3位　C-23　ゲノムDNAの糸まりを引っ張ってみよう!

4位　B-13　植物の性染色体:オスメスをつくる仕組み

4位　E-40　タンパク質をとおして病気の原因を探る

研究者の声

- 説明をすると、小学生も若いアベックも、結構喰いついてくるのに驚かされた
- 小さな子どもの純粋無垢で本質的な質問の数々は嬉しい驚きだった
- 初心を思い返すことができた
- 生物進化に興味を持つ高校生に進路相談された
- 一般の人に間違った知識も多く、訂正するのに苦労しました
- 他の研究室の発表内容はわれわれにとっても興味深かった
- 市民との交流に加え、研究者同士の交流も行え、貴重な場であった
- 「ゲノム」ひとつにしてもイメージしやすく解説する事の難しさを感じた